

市民の皆様へ

第149回

市長 谷一夫

市民の力で犯罪を減らしましょう

県内の犯罪発生件数で一宮市は例年ワースト上位を占め、本当に残念な気持ちでいっぱいです。

一宮市に限ったことではありませんが、犯罪が多発する理由の一つとして、都市化、核家族化、生活様式が多様化などを背景に地域の絆が薄れ、地域社会が持つていた犯罪抑止力が低下してきたことが挙げられています。身近で起きる自転車盗や車上狙い、空き巣といった、いわゆる街頭犯罪と呼ばれる犯罪を減らすには、まずわたしたち自身が気を付けること、そして市民の力で犯罪者を近づけないようにすることがとても大切です。

市では防犯協会各支部による地域安全活動に加えて、17年度から「一宮市民パトロール隊」を発足させました。防犯パトロールに協力いただく団体や個人に対して、腕章やジャンパーを貸し出すなど、地域の活動を支援しています。現在では各小学校の見守り隊も含めて、延べ約150団体8000人以上の方が防犯活

動に参加していただいています。

また、「青色回転灯車両」を使用して防犯パトロールを行う団体も9団体のほり、20台の青色回転灯を貸し出しています。さらに、市の公用車3台に青色回転灯を装着し地域の方々と防犯パトロールを行っているほか、委託業者による夜間パトロールを毎日実施するなど、防犯の基本である「地域の目」を強化しています。市職員が高齢者宅を訪問して犯罪の大口や対策を説明する「高齢者訪問」は警察からも高い評価をいただいています。児童を対象とした「連れ去り防止教室」、地域に向いて犯罪の傾向や対策をお話する「出前一聴」、防犯を考える「一宮市安全安心なまちづくりフォーラム」などの事業も、防犯意識を高め、効果を上げていると考えています。

こういった努力が実り、一宮市における街頭犯罪の発生状況は、16年中が6112件、17年中が5304件（前年比808件減）、18年中が498件（同806件減）と着実に

減少しています。

犯罪を防止するためには、「自分の身は自分で守る」という意識が最も大切であることは言うまでもありません。空き巣被害の3割、自転車盗被害の4割は無施錠だったそうです。これは犯罪が多数発生していることは認識しているものの、その一方で「自分だけは大丈夫」と楽観している方も相当数おいでになるといっていいのではないでしょうか。

防犯対策はいろいろありますが、玄関や窓に補助錠や防犯フィルムを取り付けたりして泥棒の侵入に時間をかけさせることはとても効果があります。泥棒の多くは5分以上かかると侵入をあきらめる傾向があるそうです。それ以外にもセンサーライトや防犯砂利、飼犬などで泥棒を威嚇することなど、できることから始められてはいかがでしょうか。

また全小学校区で行われている下校時の児童見守り活動や地域の方々による自主防犯パトロールは、「自分たちのまちは自分たちで守る」とい



市の高齢者訪問

う強い意志を犯罪者に示す意味があり、犯罪の大きな抑止力となっていることは間違いありません。

市といたしましても、自主防犯活動などに対する支援をより充実させるなど、市民の皆様をはじめ、事業者、警察などと一体となつて犯罪のない安全なまちづくりへの取り組みを推進していきたいと思っております。

どうか、市民の皆様にはご家庭や学校、職場で、犯罪から身を守るためにはどうすればよいかをよく話し合っていたくださいますとともに、各種の取り組みに、ご参加、ご協力いただけますようお願いいたします。